

レンゲ米の品質向上

南部振興局農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

草津市山寺レンゲ会は、レンゲ跡水稲栽培を行う組織として、平成18年に11名の農家で結成されました。平成19年からは、倒伏に強く良食味の品種「レーク65」で約4haの環境こだわり栽培を始めました。「山寺レンゲ米」として集落の文化祭で販売するなど、PRに努められています。



レンゲの開花状況

19年産は、各農家とも倒伏もなく過去最高の収量が得られましたが、カメムシ類による着色粒の発生と、早刈り

による青未熟粒の多発により、1等米比率が47%にとどまる結果となりました。以上のことから、20年産は、環境こだわり栽培基準に則り、かつ品質向上を目指すよう支援が求められました。

【普及活動の成果】

1) 活動の経過

湿田のためほ場ごとにレンゲの生育が異なるので、生育量の確認と基肥量の指導を行いました。

「レンゲ米栽培管理情報」を3回発行して、管理の徹底を図りました。

1回目：中干しや穂肥のポイントを伝えました。

2回目：カメムシ類を捕獲し、現況を知ってもらいながら、畦畔雑草の管理の重要なことを認識してもらいました。

3回目：早期落水の防止、収穫適期の判断についてポイントを指導しました。

反省会では、穀粒判定機、食味分析計（N社）のデータを農家ごとに出して検討しました。

2) 活動結果

検査成績は、すべて1等米でカメムシ被害による着色粒もほとんど発生しませんでした。タンパク含量平均6.3%、食味値平均74.6と「レーク65」の標準的な食味値でした。レンゲ跡栽培では、慣行栽培に対し窒素換算で48%の施用量削減が図れました。

3) 今後の課題

水田の立地が山間部に近く、カメムシ類の防除のための畦畔雑草の管理は欠かせません。草津川堤防の雑草管理は、出穂期の予想に合わせて、自治会の作業との早めの調整が必要です。

有利販売していくために「環境こだわりレンゲ米」栽培を拡大する必要があります。